

## 自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念の「その人らしく安心して暮らせるように」職員全員で実践、支援している。	「その人らしく安心して暮らせるように」の理念については新任職員研修や職員会議等で周知を図る取り組みもあり職員の周知度は比較的高い。	理念のさらなる共有と意識付けのために事業計画や家庭通信等に反映させ、また利用者や来訪者へのさらなる周知を図るため室内・玄関の見やすい場所(車椅子目線)に理念の掲示工夫を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の一員として組の協力金等は納入している。年3~4回ボランティアの方に来ていただき、踊りや琴を披露していただいている。毎日の散歩ですれ違う人に挨拶や世間話をしている。理容院の利用。	地域から孤立することがないように事業所が地域の一員として自治会費(組費)を同等に負担し、近所付き合いも毎日の外出散歩等で挨拶を交わしたり地域のボランティアを積極的に受け入れて地域地元住民とのつながりを大事にしている。	特になし
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	機会がなく地域への発信は多くないが、日頃の散歩や畑の草取り、外出することで地域の人々に認知症を理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催している。施設内の実態を報告し互いに意見をもらっている。民生委員さんより地域の交流について情報提供していただいている。	運営推進会議のメンバーには、利用者ご家族や利用者出身地区の民生委員や行政、地域包括等多様な人選が図られ、定期的な会議内容も利用者・職員状況さらに運営状況等が具体的に話し合われていることを会議録等から読み取れた。	認知症ケアの地域資源拠点として地域の高齢者福祉の向上にさらに貢献できる取り組みを計画的に図ることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くよう取り組んでいる。	必要に応じて連絡、相談を行っている。地域包括には常に連絡をとり事業所の実情を伝え、理解いただきたく努力している。運営推進会議にも毎回出席されている。	市町村の担当者や地域包括支援センター職員とは日常的に相談や連携をとり、特に新規利用希望者の情報や利用については協同関係が築かれている。	特になし
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関するマニュアルにより職員は個々に理解している。車椅子からのずり落ち、ベッドからの転落等、危険が予測される再転落防止のため、一部利用者には家族への理解のもと行っている。	身体拘束マニュアルに基づいて利用者個々の状況に対応して安全に配慮した低床ベッドを用意したり、見守り環境を工夫して居室や玄関ドアの施錠もできるだけ開放している。拘束せざるを得ない場合はマニュアルに基づいた適切な対応をしている。	特になし
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	個々に学ぶ機会を持っている。職員同士で互いに意見を言い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会等、自主参加し個々に学ぶ機会を持っている。利用者1名が活用されている。他必要性のある場合は活用できるよう支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時、契約書に沿って説明し、時間をかけ理解していただいている。質問等には来所された時や、電話にて行っている。また、改定時は書面や家族会等で説明し、理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見・要望等は家族会時、各家族にお聞きしている。また来所時他いつでも受けている。要望等必ず反映できるものではないができる限り努力している。	運営の状況については運営推進会議や職員会議や来訪する家族・利用者に報告して協力を仰いで意見や要望についてもできるだけ運営に反映させようとする管理者姿勢は伺えた。	特になし
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月末の職員会議では、職員の意見や提案を聞く機会がある。またその都度管理者は職員の意見や思いを聞くが、反映には至らない。代表者には理解してもらえない。	今年度当初は報酬改定による収入減や利用者の定員割れや職員退職による補充困難等で代表と職員間で不信も生じた様子でしたが、その後の説明話し合いにより現在は改善されている。	特になし
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の人員確保がされていない。 職員の努力や実績は把握していないように思われる。経営苦を言われ待遇面は悪くなる一方のため、やりがいが出ない。代表者にはもっと理解して欲しいと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修を受けられる確保がなく、働きながらのトレーニングは難しくできていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	北信グループホーム交流会があるが、交代勤務のためなかなか参加できない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人の話を傾聴しニーズを把握し、安心していただけるようにしている。また信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	初期の面談、アセスメント作成の段階で家族の思いを傾聴している。毎月お便りで利用者の様子をお知らせしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	難しいこともあるが可能な限り家族の思いに添えるように努めている。通院時の送迎や付き添いを必要に応じ行っている。日用品の購入サービスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人のできる事で協力していただき、生活を共にしていく関係を築いている。また教えていただく事もあり互いに協力していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	常に家族と相談し本人にとって一番良い支援のあり方を共に考えている。また可能な限り通院介助や外出をしていただけるよう努めている。面会に来ていただけるよう常に対応可能にし、柔軟な対応を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	いつでも面会に来ていただけるよう支援している。面会できる場所を確保し、ゆっくりしていただいている。一度見えられた方には再訪をお願いする。	ご家族や知人等が気軽に来訪していただけるようにゆったりとくつろげるスペースを用意したり来訪の曜日時間等の制限も緩和されて自由なルールになっている。また知人や家族に何時でも会いにいけるように支援している。	特になし
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者間の会話、行動には常に気を配り、皆で楽しく過ごせるように配慮している。また自由に関わりあえるよう支援しているため、利用者同士の気遣いも見られる。隣の方の食器片付けなど心遣いも見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族が地域代表として運営推進委員を務めたり、野菜等届けて下さる。家族が時々訪問して下さる。入院等でサービス終了後も状況を家族にお聞きし、相談を受け必要に応じサービスが受けられるよう支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中から読み取る。また、話の流れでお聞きする。思いを伝えることができなくても表情から、暮らし方の希望や意向を把握するよう心掛けている。	ほとんどの利用者がコミュニケーションを図れることもあり、昼食後の休憩時間以外はほとんどの利用者がリビングで過ごしていて、特にお茶や食事時には職員との話して盛り上がっている中で利用者さん個々の思いの把握に努めている。	特になし。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日々の会話の中から生活歴や生活環境、なじみの暮らし方を把握している。また前入所施設、家族、ケアマネ等から情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の介護記録を読むことで、全職員がより把握できる。無理なく個々のペースで支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人が意向を伝えることができない場合でも家族、職員と話し合い意見やアイデアを反映していく。	アセスメントやモニタリングに基づいて個別介護計画が作成されて全職員で共有するシステムがあり、また終末期等で意思伝達が困難な利用者さんには本人の様子をわかる方やご家族等の意見も聞いて介護計画に反映されている。	特になし。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の日誌・記録・連絡帳や口頭にて職員全員が情報を共有している。職員会議で話し合い、より良い支援ができるよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の状況を把握し、個々に必要な支援・サービスを提供できるよう、職員間で話し合い、できる限りのサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員、地域包括支援センター、地域医療機関の支援、地域ボランティアの支援、地域の理容院、運営推進委員など協力いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	個別にかかりつけ医があり、受診は家族が基本的に行っているが、日々の様子や体調の変化等情報を細かく伝えている。状況に応じて往診もしていただき医療機関との対応を行っている。	ほとんどの利用者には主治医(かかりつけ医)がおり、異変が生じた時は家族に連絡して主治医の受診・往診をしている。	特になし。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師による週一回の訪問があり、体調の変化や気づきを伝えて指示を仰いでいる。必要に応じ電話にて連絡・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院のケースワーカー・看護師等と面会や電話連絡を行い、退院後の支援について情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合、どのような支援をしていか前もって家族に伺っている。また家族会にて家族の意向を伺い、できる限り意向に添えるように努力している。	事前(利用時)に全員の利用者やご家族に重症化した場合の対応意向を確認して家族会等でも随時話題を提供して事前準備をしている。特に終末期の利用者さんにはご家族が来訪する都度確認しながら医療関係者にも報告相談をしている。	特になし。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	個々に講習会への参加を行っている。マニュアルはあるが、施設内全体での定期的な訓練は行われていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年、施設内にて避難訓練を実施している。また夜間を想定した避難訓練を職員一人ひとりが行う機会を設けている。年一回消防署員による指導を受けている。	昼夜の様々な災害を想定した非難訓練が年6回実施されており、消防署も近くあり消防職員にも立ち会っていただき基準に基づいた訓練を実施している。また災害時に備えた食料品や飲料水も備蓄されている。	近隣地域住民と災害時の応援協定や訓練にも参加していただけるようなシステムを図ることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	全職員が利用者一人ひとりの人格を尊重し言葉掛けや対応に注意している。またその人に合った言葉掛けや、時には方言を交えた会話をしている。	男性利用者を初めて受け入れたことによりトイレも男性専用を工夫してプライバシーを大事にした取り組みがされている。個々の利用者の思いを大事に傾聴する目的で方言での会話も取り入れているが若い職員は方言をうまく話せず苦戦している。	特になし。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	個別に話を聞いたり思いを話してもらっている。また表情や態度をよく観察し、言葉掛けに工夫している。利用者に合わせて選択できる言葉掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	散歩やレクリエーション等、本人のペースを大切にして希望に沿って過ごしていただいている。その日の体調や気分により、日々の流れの中でも本人のペースで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	清潔・衛生面には特に気をつけている。好みの衣類を選んで着ていただき、また自由に衣類を着替えられるようわかりやすい位置に衣類を置いている。髪のカットを本人希望で行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備や片付け等、利用者のできる事をお願いしている。(テーブル拭き・箸を配る・下膳・食器拭き・収納) また、季節の食材を使用し、野菜の皮むき・根取り等下ごしらえをしていただいている。	全ての食事を自前で提供しており、利用者の嗜好を献立に取り入れたり、下ごしらえでも野菜の皮むきやモヤシの芽とり、根っことり等を利用者に手伝っていただき、テーブル拭きや配下膳等もできる利用者さんが進んで行なっている。	特になし。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	バランス良く食べやすい食事支援をしている。食事や水分の摂取量を日々チェックし不足のないよう支援している。また病状や体重の変化をみながら摂取量を調整し、形状にも工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後個々に声掛けし口腔ケアをしていたが、拒否する人には無理強いしない。 夜間は義歯を外していただき、定期的に洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個々に合わせてトイレ・ポータブルトイレを使用している。介助を要す利用者には時間をみて声掛け・トイレ誘導を行っている。立位困難な利用者は危険防止のためオムツに変更するなど、その都度対応している。	排泄行為は比較的自立している利用者がありますが、終末期の方や夜間は転倒の心配のある方や体調不良時は本人の希望により居室でポータブル使用をされている。	特になし。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	野菜中心で消化のよい食事の工夫、水分摂取していただける声掛けをしている。また日々の散歩や体操等で身体を動かせるよう取り組み、便秘がちの利用者については医師・訪問看護師に相談・助言を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	一日の流れに沿って大幅な時間帯の変更はしていないが、入浴支援時間内で順番交替や、体調に合わせて入浴していただいている。入浴拒否される利用者には、気持ちよく入っていただける声掛けを工夫している。	入浴サービスは週に2～3回の午後の時間帯で実施されており、1回一人の個浴でプライバシーにも配慮されている。湯温も微温湯でゆっくりゆったりと入浴を楽しまれている。	特になし。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	睡眠は十分取っていただけるよう個室内やリネンの清潔・環境には気を配っている。またその時々状況に応じて自由に自室で休息を取られている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬についてはその目的・用量・用法について管理している。職員管理の下、確実な支援の周知徹底をし、症状の変化について注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	草取りや野菜作り・収穫の支援を行っている。季節の行事（七夕・正月・年取り・誕生会等）行ったり、歌やテレビ、利用者によってはご主人の月命日に飲酒、と生活に楽しみがもてるような支援を心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々散歩・外気浴をしている。家族の協力もあり、外食等定期的に外出できる利用者が多い。また季節に応じて花を見に行ったり、紅葉狩り、つるし雛飾りの見学、カラオケ・踊りの観賞等に出掛けている。	外出は基本は自由でほとんど毎日散歩に出かけている方も2～3名おり、2～3ヶ月に1回程度の方もおられます。外出を嫌がる方にも随時声かけをしていますがお誕生祝いに家族が連れ出していただいたりお花見等の行事の機会にはほぼ全員の利用者さんが外出を楽しんでいる。	特になし。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々には所持されていない。家族より事業所で預かり、必要な物や、利用者が希望されれば職員が購入代行を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者本人の希望があれば電話に出たいだけ、手紙が来た場合は直接お渡しする。遠くの家族には手紙を送っていただけようをお願いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用部には全員が座れるソファを置き、植物や野菜、花の咲く様子が眺められるなど季節を感じていただける。快適に過ごせる温度管理、適度な換気、清潔感を保つなど居心地良く生活できる工夫をしている。トイレや浴室もわかりやすく混乱が少ない。	生活空間は全体的に自然採光が十分に入るように配慮工夫されていて明るい室内環境になっている。トイレや浴室や自室も色分けしたりして利用者がわかりやすいように工夫されている。	特になし。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人の時や利用者同士ゆっくり過ごされるよう、ソファの配置を工夫している。またお互いの個室で一緒に過ごされている仲の良い利用者もいる。ソファや食卓席にて自由に過ごされるよう見守りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が置きたい物を自由に置いている。また思い出の写真や飾り、遺影、位牌を持参されている。家具やベッドの配置は動きやすく利用しやすいよう工夫したり、収納棚の位置を変更し外を眺めやすくされている。	居室環境はほとんどが個室で窓辺に面しており利用者個々の思いで自由に模様替えができていて馴染みの物品や連れあい家族の写真位牌も飾られていて、ゆったりと安全にくつろげる居室環境になっている。	特になし。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々に応じてできる事はやっていただけよう声掛け支援している。 安全に過ごしていただけるよう危険なものは置かない、個室を間違えないよう入り口に名札を貼ってあり、活用されている。		